

西京人
Xijingman



西京人
—西京は西京ではない、
ゆえに西京は西京である。

2016年4月29日(金・祝)→
2016年8月28日(日)

展覧会名	西京人—西京は西京ではない、ゆえに西京は西京である。		
会期	2016年4月29日(金)→8月28日(日) 開場時間 / 10:00~18:00 (金・土曜日は20:00まで)		
	休場日 / 毎週月曜日(ただし5月2日、7月18日、8月15日は開場)、7月19日		
会場	金沢21世紀美術館 展示室7~12、14	作品点数	25点
料金	一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ※本展観覧券で同時開催中の「コレクション展2」(~5/8)「コレクション展1」(5/21~)にもご入場いただけます。 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金		
	前売りチケット: チケットぴあ TEL 0570-02-9999 (Pコード[本展観覧券] 767-455) ローソンチケット TEL 0570-000-777 (Lコード[本展観覧券] 53040) 販売期間: 3月28日より8月28日まで		
主催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]		
助成	 アサヒグループ芸術文化財団		
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

展覧会について

2007年に小沢剛(1965年生まれ、埼玉県在住)、チェン・シャオション(1962年生まれ、北京在住)、ギムホンソック(1964年生まれ、ソウル在住)の3人のアーティストが、西京から来た人を意味する「西京人」という名でコラボレーションチームを結成。北京でも東京でもソウルでもないアジアのどこかの国、「芸術を愛する人々が住む国」について物語るというプロジェクトをスタートさせました。西京は、現実からかけ離れた創造上の出来事というだけでなく、我々が生きる現代という時代を照射した語として読むことが出来ます。今回はこれまでの作品の中から、《第3章:ようこそ西京にー西京オリンピック / 西京冬季オリンピック》《第4章:アイラブ西京ー西京国大統領の日常》《第4章:アイラブ西京ー西京国の学校》と、最新作となる《第5章:西京は西京ではない》などを発表します。また、同世代で同時代を生きる3人が、独立したひとりのアーティストとして発表してきた近作の中から、歴史への対峙や哲学的考察を含むインスタレーション、映像、絵画、パフォーマンスなどの作品も紹介します。



展覧会の特徴

アーティストが作る架空の国から世界の今が浮かび上がる

西京人が結成されてから10年近くが過ぎました。その間の経済的發展と興隆は、国際社会においてアジアの地位を押し上げることに大きな役割を果たしてきました。しかし、同時にそれはアジアを取り巻く事情も大きく変化したことを意味して、とりわけ地理的に隣国である中国、韓国、日本の3つの国は、まさしくグローバルな関係性の中で語られるようになったのです。西京人の3人による10年近くにわたるプロジェクトもまた、その時々彼らを感じる時代の空気や場所のリアルさを素直に伝えていきます。架空の国家である西京国は国家国民の枠の逸脱というよりも、現実の世界を映す鏡の中に存在していて、ユーモアを交えながら我々が生きる時代や社会を振り返ることを促しているのです。

西京人による最新作を発表

シリーズ最新作《第5章:西京は西京ではない》を日本(金沢/取手)と韓国(ソウル)で制作し、本展にてはじめて発表します。西京人は、今回はじめて「西京人でない人々」をプロジェクトに迎え入れました。西京人の呼びかけに集まった人々が《第3章:ようこそ西京にー西京オリンピック》《第4章:アイラブ西京ー西京国大統領の日常》と同じテーマでワークショップを行い、西京人が映像作品として発表します。

第5章 西京は西京ではない

文:西京人

金沢での展覧会に加えられる新作「第5章:西京は西京ではない」は、メンバーである3名に代わって、第三者に参加を促すものです。

「西京は西京ではない。Xijing is NOT Xijing」というタイトルの源となっているのは、仏教の思想です。

私たちは生まれた瞬間から、必ずどこかの国の国民です。その国の歴史や文化を背負ってこの世に生まれてきます。それは私たちが何者であるかを特徴づけるアイデンティティの一部です。自己を確立するために、自己と他者との間に引かれる境界線は、ときに軋轢を生み出します。アーティストとしての私もまた、そこから自由ではありません。

「西京」という都市国家は、この地球上のどこかに線引きをして国境線をもつ通常の国家とは異なります。現れては消える変幻自在で固定されない国家です。そして「西京」であると同時に「西京ではない」という矛盾をはらんでいます。

西京は、「空っぽ」です。それはけして空虚な空洞ではありません。むしろはるかに積極的で、何ものにも規定されず開放された自由な空間です。地図上の枠組みをいったん離れ、自由な発想を生み出すための実験場です。そして「西京人」もまた固定された何者かではありません。誰もが西京人としてその実験に参加できるのです。

西京は西京ではない、ゆえに西京である。

3人のアーティストの最新作も紹介

国際舞台で活躍するチェン・シャオション、ギムホンソック、小沢剛が各自それぞれに発表してきた作品の中から新作を紹介し、各国の現代美術シーンを牽引する作家たちだけに、西京人とは違った魅力を発見することができます。また「アジア」と括られた一つの地域から欧米に向けて発信してきた90年代から、アジアの歴史や風土を自分たちが認識するように仕向ける視点を持つようになった彼らの感じる場所は何か。アーティストトーク他でも考察していきます。

展示構成

展覧会会場入口

《第3章: ようこそ西京に—西京入国管理局》2012

西京国に入国するには、もちろん入国審査を通過しなければなりません。西京人が、大使館での入国申請、入国に必要な持ち物、入国許可の方針などを伝えています。国の内と外を考えると、見えない国境についてと国境を超えることの意味について考えざるをえません。



《第3章: ようこそ西京に—西京入国管理局》
2012

展示室7

《第4章: アイラブ西京—西京国大統領の日常》2009

西京人が14日間にわたり、それぞれ大統領として国政を担った様子を描いた作品です。彼らが西京国を豊かに楽しめようと、教育、都市計画、経済、領土、食料などについて、ユニークな方法で課題の可視化と解決に向けて取り組んでいる様子を紹介し、

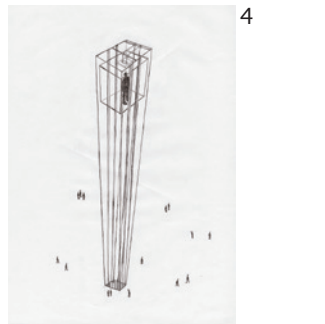


《第4章: アイラブ西京—西京国大統領の日常》
2009

展示室8

ギムホンソックの部屋

ギムホンソックはひとつの事をふたつの異なる地点から観察して、位置の違いによって対象がどのように見えるか、またその差を考察する作品を紹介し、また、文化における都合の良い翻訳のあり方に関心を寄せています。《Public Blanc》(2006-2008)は、パブリック・アート(公共空間に置かれる芸術作品)についての新しい提案をテキストとドローイングで表した作品です。モニュメンタルでプロパガンダの意図が含まれるもの、という公共芸術作品についての先入観と、現実を対比して、公共の名の下に軽視される「個人」や「倫理」について言及しています。



ギムホンソック
《パブリック・ブランク (金沢バージョン)》
2006 / 2016

展示室9-10

チェン・シャオションの部屋

チェンは1909年から2009年の間に起きた、歴史的な出来事を伝える写真をインターネット上から選び、150枚以上のインク画を描きました。近代化に関わる自国の歴史を約3分の1のモーションピクチャーにまとめた作品《Ink History》と世界中の権力や暴力に立ち向かう人々の抵抗の様子を伝える《Ink Media》を紹介し、



チェン・シャオション
《インク・メディア》
2012

展示室11

《第3章:ようこそ西京に一西京オリンピック》2008

《第3章:ようこそ西京に一西京冬季オリンピック》2014

西京国は独立国家としてオリンピックに参加しようと決め、2008年に開催された北京オリンピックの開催中に、北京市内の他の地で独自のオリンピック競技会を開催しました。飛び込み、サッカー、卓球、射的、ウエイトリフティングなど、多くの最高記録が出てメダルの授与が行われました。そもそものスポーツの語源にみる、楽しく友好的な競技会がもたらすものは何か、考える機会になることでしょう。その後、アイスホッケー、リュージュやカーリングといったウィンター・スポーツを元に、2014年に東京で西京国冬季オリンピックを開催しました。



6

《第3章:ようこそ西京に一西京オリンピック》
2008

展示室12

《第4章:アイラブ西京一西京国の学校》2013

西京国の教育について考えると、現実社会における教育システム、方針とは真逆のようにみえます。西京国では、国語、数学、哲学、音楽、歴史、体育、科学の教科を、教師と生徒の間のヒエラルキーを排し、共に学び共に教え合うという方法を採用しています。



7

《第4章:アイラブ西京一西京国の学校》
2013

展示室14

小沢剛の部屋

近作《帰って来たペインターF》もまた、架空の物語です。インドネシアに従軍し戦争を描いた日本人画家「ペインターF」を主人公に、戦前から戦後にかけての画家の人生を油彩画と映像で表しています。実在の従軍画家についての記録、滞在したとされるインドネシアの音楽家や画家との対話も重ねて、支配と被支配の両面から戦争の時代を生きたひとりの画家を通して、歴史の裏に隠れる芸術家の存在について想像させる作品です。



8

小沢剛
《帰って来たペインターF》
2015

関連プログラム

アーティスト・トーク

[日時] 4月29日(金)

セッション① ギムホンソック 13:00~14:30 ※逐次通訳付(ハングラー日本語)

セッション② 小沢剛 15:00~16:30 ※日本語のみ

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料 [定員] 先着90名

※当日10時からレクチャーホール入口にて各回の整理券を配布します。

レクチャー&ディスカッション

ハウ・ハンルウ×ギムホンソック× 小沢剛

ハウ・ハンルウ(HOU Hanru, MAXXI, ローマ/ イタリア、アーティストティック・ディレクター)によるレクチャーと、ギムホンソックと小沢剛を交えたディスカッション。

[日時] 7月2日(土)13:00~15:00(開場 12:45)

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料 [定員] 先着90名

※逐次通訳付(英語-日本語)

※当日10時からレクチャーホール入口にて整理券を配布します。

※レクチャーの途中は緊急の場合を除いて出入りはできません。

ワークショップ「ふくろの国へようこそ」

紙袋を着たり履いたり被ったりして「ふくろ族」になってみよう！ 何の変哲もない紙袋が、帽子や服になったりトンネルになったり、宝物になったり…さあ、いったい、どんな物語が待っているのでしょうか？

〔日時〕 7月23日(土) 午前の部 10:00～12:00 午後の部 14:00～16:00

〔会場〕 キッズスタジオ 〔講師〕 小沢剛

〔対象〕 子どもから大人まで 〔参加費〕 無料

〔定員〕 各回先着20名(定員に達し次第締め切り)

〔申込〕 お電話よりお申込みください。076-220-2801(学芸課) 〔申込受付開始〕 7月5日(火)～

〔受付時間〕 火曜日から日曜日の10:00～18:00

※未就学児はワークショップに参加できる保護者の同伴が必要です。

作家プロフィール

西京人

チェン・シャオシヨ(中国)、ギムホンソック(韓国)、小沢剛(日本)の3人のアーティストによって2007年に結成されたアーティスト・ユニットであり、プロジェクトベースで作品を制作する。5つのプロジェクトを通じ、西京というアジアのどこかにある都市を設定し、架空の物語を伝えている。

チェン・シャオシヨ(陳劭雄)

1962年汕頭(中国)生まれ、北京(中国)在住 | 個展「Strategies for Activists」(スペンサー美術館、カンザス、2012年)、「Air-Dry History」(ペキン・ファイン・アーツ、香港、2013年)、「チェン・シャオシヨ: インク・ヒストリー、インク・メディア」(シアトル美術館、2014年)。近年参加したグループ展「INK ART: Past as Present in Contemporary China」(メトロポリタン美術館、ニューヨーク、2014年)、「Sights and Sounds: Global Film and Video」(ジュエッシュ美術館、ニューヨーク、2014年)、「Making Histories」(カンザスシティ・アート・インスティテュート、2015年)、「The Civil Power」(民生現代美術館、北京、2015年)など。



《第3章:ようこそ西京に一西京オリンピック》
2008

ギムホンソック

1964年ソウル(韓国)生まれ、在住 | 個展「REDCAT」(ロサンゼルス、2004年)、アート・ソング・センター(ソウル、2011年)、プラトール・サムソン美術館(ソウル、2013年)。グループ展「第50回、第51回ヴェネチア・ビエンナーレ」、「第10回イスタンブール・ビエンナーレ」、「第4回、第6回、第9回広州・ビエンナーレ」、「Brave New Worlds」(ウォーカー・アート・センター、2007年)、「Laughing in Foreign Languages」(ヘイワード・ギャラリー、2008年)、「Your Bright Future」(ロサンゼルス州立美術館、2009年)など。

小沢剛

1965年東京生まれ、埼玉在住 | 個展「同時に答えるYesとNo!」(森美術館、東京、2004年)、「透明ランナーは走りつづける」(広島市現代美術館、2009年)、「帰って来たペインターF」(資生堂ギャラリー、東京、2015年)。グループ展「第50回ヴェネチア・ビエンナーレ」、「第5回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(クイーンズランド・アート・ギャラリー、2006年)、「プロスペクト2」(現代美術センター、ニューオーリンズ、2011年)など。

広報用画像

画像1～9を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしく願っています。